



1	はじめに	1
2	総会案内	1
3	第28回新潟大会 2025 開催案内	1
4	理事会報告	10
5	行事予定・報告	12
6	2025 年度行事経過と今後の予定	19
7	事務局より	19

1 はじめに

今号では、総会案内、第28回全国大会(新潟大会)開催案内、理事会報告、行事報告などをお伝えします。第28回全国大会(新潟大会)については会員への一斉メール・ホームページで既にお知らせし、参加者募集を開始しています。

「7. 事務局より」に記していますが、総会に向けて、会員管理サービスシステムの活用をお願いします。当該システムの「マイページ」にある、「会員情報を変更する」のページの最下段に、「総会招集の通知および総会関係書類の電磁的方法による送付」の選択項目があります。電磁的方法(インターネット)による総会開催通知等の受取りの承諾をお願いします。皆様のご協力が、事務局業務と経費の低減に大きく寄与します。未選択の正会員におかれましては、是非ご協力をお願いします。

2 第1期第3回総会のご案内

日時: 令和7年9月13日(土) 午前9時30分~10時30分

場所: 朱鷺メッセ 4階国際会議室 (所在地: 〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号)

目的事項等詳細につきましては、追ってメール・ホームページにてご案内差し上げます。

正会員の皆様におかれましては、ご出席よろしくお願いいたします。

3 第28回新潟大会 2025 開催案内

生態工学会第28回新潟大会 2025 は、下記のとおり開催されます。大会ウェブサイトの申込サイトより参加を受け付けておりますので、奮ってお申し込みください。

当日は、世代を問わない闊達な意見交換の場とするため、ぜひ軽装でお越しください。

【概要】

■大会実行委員長

新潟大学農学部農学科 関島 恒夫 教授

■日程

第1日目 9月11日(木)：研究発表(ポスター発表)，自由集会

第2日目 9月12日(金)：研究発表(口頭発表)，自由集会，懇親会

第3日目 9月13日(土)：総会，発表賞表彰，廣瀬賞発表・記念講演会，
公開シンポジウム

第4日目 9月14日(日)：エクスカーショ

■会場

・第1～2日目 9月11日(木)～12日(金)

新潟大学 五十嵐キャンパス(〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地) 総合教育研究
棟B棟(キャンパスマップS10)、

図書館ライブラリーホール・ラウンジ(キャンパスマップS5)

最寄り駅：JR 越後線 新潟大学前駅

アクセス：<https://www.niigata-u.ac.jp/university/access/ikarashi/>

キャンパスマップ：<https://www.niigata-u.ac.jp/university/map/ikarashi/>

・第3日目 9月13日(土)

朱鷺メッセ4階 国際会議室

アクセス：<https://www.tokimesse.com/visitor/access/>

■大会参加費(うち消費税10%含む)

申込期間 会員の種別	～8/31(日) まで	9/1(月)～ 9/10(水)	9/11(木)～ 9/13(土)
会員(正会員・賛助会員)	8,500円	10,000円	14,000円
非会員	11,500円	13,000円	14,000円
学生(学生会員・非会員)	3,000円	4,000円	5,000円
名誉会員	無料	無料	無料

■大会ウェブサイト

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2025>

■参加申込サイト

https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2025/content/registration_jap

【研究発表，自由集会】(対面形式で実施)

■第1日目 9月11日(木)

研究発表の第 1 日目はポスター発表(80 件),自由集会(8 件),企業展示が実施されます。
 詳細なプログラム,要旨は下記ページをご覧ください。

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2025/content/rinc>

8 件の自由集会のタイトルは以下のとおりです。興味深いテーマが目白押しです。

- ・ 河川環境を語ろう！—生態学・水産学・工学の新たな挑戦
- ・ 出水攪乱に対する河川生物応答パターンの解明と攪乱外力評価手法の開発
- ・ 扇状地河川で治水・利水・生物多様性の両立する水マネジメントを考える
- ・ 風力発電の環境アセスメントにレーダ解析を活かすことを目指して
- ・ 河川・ダムに関するデータベースについての意見交換会
- ・ 新規的・独創的に生物多様性・生態系を観測する：平成 29 年 7 月九州北部豪雨後の生物調査での試み
- ・ 研究から実践へ：GI/NbS で描く持続可能な地域のかたち
- ・ 遺伝子解析で解き明かす流域生態系のつながり

■第 2 日目 9 月 12 日（金）

研究発表の第 2 日目は口頭発表（39 件）,自由集会（2 件）,企業展示が実施されます。詳細なプログラム,要旨は下記ページをご覧ください。

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2025/content/rinc>

2 件の自由集会のタイトルは以下のとおりです。

- ・ これからのダムの生態系管理はどうあるべきか？
- ・ 3 次元の活用方法を環境への応用生態工学に結び付け

また、研究発表終了後の 19 時からアートホテル新潟駅前で懇親会が実施されます。昨年に続き全国の地域研究会が特産品を持参くださる予定です。どうかご賞味ください。

【企業展示】

新潟大会 2025 では現在 11 団体の参加申込をいただいています。パネル等を使って各団体のいちおし技術、取り組み事例などが紹介される予定です。ぜひご覧ください。第 1 日目～第 2 日目は新潟大学の五十嵐キャンパスで、第 3 日目は朱鷺メッセで行われる予定です。

■第 1～2 日目（9 月 11 日（木）～12 日（金）：新潟大学 五十嵐キャンパス）

- ・ 株式会社田中三次郎商店

展示内容：生物モニタリング、行動追跡用機材の紹介

- ・ 株式会社生物技研（賛助会員）

展示内容：自社サービス内容を記載したチラシの配布等

- ・ 株式会社プラントバイオ

展示内容：自社サービス内容を記載したチラシの配布等

- ・ 株式会社建設環境研究所（賛助会員）

展示内容：調査・分析の技術、生物多様性の取り組み、社会貢献の取り組みの紹介

- ・ Biologging Solutions 株式会社

展示内容：生物装着型（バイオロギング）および設置観測型の完全防水・耐圧の記録装置（超小型深度・

温度・加速度・地磁気ロガー、ビデオロガー) の紹介

・株式会社荒川企業

展示内容：環境に配慮したコンクリートブロック等の紹介

・株式会社アドヴァンス

展示内容：自社製品、サービス内容の紹介

・日本工営株式会社（賛助会員）

展示内容：BSC工法～土壌藻類を活用した自然にやさしい侵食防止/植生形成技術～の紹介

■第3日目（9月13日（土）：朱鷺メッセ）

・株式会社 U・STYLE

展示内容：自社サービス内容および取り組み事例の紹介

・新潟県土木部河川整備課

展示内容：二級河川天王川におけるトキの野生復帰に向けた川づくりの紹介

・越後平野における生態系ネットワーク推進協議会

展示内容：越後平野における生態系ネットワーク形成の紹介

以下の2団体は第1日目～第2日目に続き、第3日目にも参加予定です。

・株式会社田中三次郎商店

・株式会社アドヴァンス

（申込順）

【懇親会】

懇親会は、9月12日(金)19:00 からアートホテル新潟駅前で行います。毎回好評の「全国からのお土産（お酒）」コーナーも予定しておりますので、会員同士の交流・情報交換の場として、ぜひご参加ください。

日時：9月12日(金) 19:00～21:00

場所：アートホテル新潟駅前 越後西の間（JR新潟駅南口直結）

アクセス：<https://www.art-niigata-station.com/access/>

参加費（うち消費税10%含む）：

会員（正会員・賛助会員・名誉会員）・非会員：8,000 円（予定）

学生（学生会員・非会員）：3,000 円（予定）

申し込み方法：下記 URL よりお申し込みください。なお、全国大会開催中の追加申し込みは受付けませんので、ご注意ください。

申込 URL：<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2025/content/konshinkai>

【総会】

応用生態工学会第1期第3回総会は、朱鷺メッセ国際会議室9月13日（土）の9:30～10:30 に実施予定です。総会資料など詳細については、追ってメール・ホームページにてご案内差し上げます。

【第2回廣瀬賞発表、受賞講演会】

第2回の廣瀬賞の発表及び受賞者による記念講演会は、朱鷺メッセ国際会議室で9月13日（土）の10:

30～13：00 に実施予定です。

受賞者は 11 頁にて報告しています。受賞講演会では、各受賞者の研究内容や活動内容などが紹介されます。貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

【公開シンポジウム】(会場とオンラインのハイブリッド開催)

今回の公開シンポジウムは「生態系ネットワーク形成を基軸とした地域づくりを目指して」と題して、下記のとおり実施されます。オンラインでの配信も実施しますので、多数のご参加をお待ちしています。

■企画のねらい

生物(個体群)が絶滅せずに生き残るためには、個体の分散や移動、遺伝子の交流といった生態学的なプロセスが欠かせません。これらの営みが人間活動等により制約を受けると、生物個体群だけでなく種の絶滅の可能性も高まることから、生物にとって重要な生息域を保護することに加え、併せて、それらを広域的に連結する取り組みが必要となります。生物の生息域を有機的に繋げ、生息・生育上重要な生態学的なプロセスを維持する方策、それが「生態系ネットワーク」の形成です。

生態系ネットワークの形成は、さまざまな自然再生の中で取り組まれてきました。水田と排水路を繋げた「水田魚道」は、その代表的な一例といえるでしょう。そして今、国として生態系ネットワークの形成を後押しする動きが出てきています。令和 6 年 5 月、国土交通省が設置した「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方検討会」から、今後の河川整備のあり方について提言がなされました。その中で、「生物の生活範囲は必ずしも河川内にとどまるものではなく、農地や農業用排水路など流域の生息・生育・繁殖の場との行き来など、相互に影響し合っている場合もあるため、流域全体で考えていく必用がある」とし、流域治水を進めていく中で、併せて生態系ネットワークを形成していくことの重要性が謳われています。さらに、国土交通省は流域の市町村、NPO、学校など多様な主体との繋がりを活かして、川の中を主とした「多自然川づくり」から、流域の「河川を基軸とした生態系ネットワーク形成」への視点を拡大し、流域の農地や緑地などにおける施策とも連携しながら、魅力ある地域づくりを推進する、生態系ネットワークの社会実装化を目指しています。その一方、生態系ネットワークという用語や考え方は必ずしも社会に浸透しているとはいえず、また、その取り組みに関わるさまざまな主体の間でもその意義が共有できていない可能性も否めないことから、生態系ネットワーク形成が目指す、生物の生息・生育上重要な生態学的プロセスの維持に将来的に貢献できない事態も発生しかねません。

応用生態工学会は、「人と生物の共存」、「生物多様性の保全」、「健全な生態系の持続」の 3 つの柱を達成目標として掲げる学術団体です。本会の全国大会が新潟の地で開催されるにあたり、生態系ネットワーク形成の意義と価値について今一度市民とともに共有し、そして、その取り組みを活かして、地域づくりにどのように活かしていくかについて、生態系ネットワーク形成に関わる行政担当者や有識者、そして先進的な自然再生を進めている小山市、出雲市、新潟市の 3 人の首長をお招きし、話題提供いただきます。公開シンポジウムからの学びを通して、応用生態工学が今後取り組む課題を見出すことを企画のねらいとします。

■日時

2025 年 9 月 13 日(土) 14：00～17：00

■会場

朱鷺メッセ4階 国際会議室 および zoom ウェビナー

(朱鷺メッセへのアクセス : <https://www.tokimesse.com/visitor/access/>)

■プログラムと話題提供者

開会挨拶 新潟大学農学部教授 関島恒夫

新潟市長挨拶 中原八一

<第1部 生態系ネットワーク形成とは>

小島優 氏 (前 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長)

(現 国土交通省 大臣官房審議官)

『河川を基軸とした生態系ネットワークの形成』

中村太士 氏 (北海道大学名誉教授)

『生物生息場の連結性とネットワーク化がなぜ必要か?』

<第2部 生態系ネットワーク形成を基軸とした地域づくり>

浅野正富 氏 (小山市長)

『関東におけるコウノトリに選ばれる地域づくり

～コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラムの取組～』

飯塚俊之 氏 (出雲市長)

『トキも人も育つまちへ ～トキの放鳥・野生復帰に向けた取組～』

野島晶子 氏 (新潟副市長)

『ラムサール条約湿地都市認証と「国際湿地都市 NIIGATA」の未来』

<第3部 パネルディスカッション>

テーマ

① 生態系ネットワークがもたらす多様な価値

② 生態系ネットワークを活かした魅力的な地域づくりと課題

<コーディネーター>

関島恒夫 氏 (新潟大学農学部教授)

<登壇者>

新潟市副市長, 小山市長, 出雲市長, 国土交通省小島優河川環境課長, 中村太士北大名誉教授, 関健志(公財)日本生態系協会専務理事, 藤田美幸新潟国際情報大学教授

閉会の挨拶 国土交通省北陸地方整備局河川部長 木村勲 氏

■参加費

無料 (どなたでもご参加いただけます)

■参加申込み

会場参加とオンライン参加はいずれも, 下記 URL よりお申し込みください. 会場参加は先着 300 名,

オンライン参加は先着 500 名で締め切ります。会場参加の申込が事前に定員に達した場合は、会場での当日の参加申込をお断りさせて頂く場合があります。ご注意ください。

申込 URL : https://zoom.us/webinar/register/WN_djUoLQweStC7Akaq0u3-RA

■CPD申込み

建設コンサルタンツ協会(JCCA)のCPD登録証を発行します。ご希望の方は上記のサイトで参加申込の際にチェックをお願いします。会場参加の方には当日配布します。Zoom ウェビナー参加の方には視聴時間を確認の上、後日、ご登録頂いたメールアドレスにCPD発行用のURLをご送付します。

■主催

応用生態工学会第28回新潟大会2025実行委員会

■後援

国土交通省北陸地方整備局、環境省自然環境局、新潟県、新潟市、国立大学法人新潟大学、新潟日報社、農林水産省北陸農政局

■詳細は以下のURLよりご確認ください。

https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2025/content/public_symposium

【エクスカーショーン】

大会最終日の9月14日(日)には、エクスカーショーンを行います。

《越後平野の生態系ネットワークを「歩いて、見て、食べて、体感する」》と銘打って、周辺の魅力的な場所を訪問します。皆様の参加をお待ちしております。

■開催趣旨

大会開催地の新潟市は、大河川・信濃川と阿賀野川の下流域に位置します。かつて北前船の寄港地であった新潟の湊(みなと)には、信濃川・阿賀野川流域で育まれたお米が集積し、交易の要として発展しました。しかし、越後平野は海拔ゼロメートルにちかい低平地であることから水はけがわるく、胸や腰まで水に浸かり、木舟をつかって稲狩りをするなど米作りも重労働でした。大雨による河川の氾濫に苦しめられてきました越後平野ですが、こうした困難を克服するため、江戸時代から続いた大規模な土木事業(新潟湊の開港、信濃川と阿賀野川の河口域の分離、萬代橋、大河津・関屋分水の建設等)、そして数多くの農地排水対策が進められました。これにより越後平野は大穀倉地帯へと発展し、湊町新潟の繁栄を支えました。一方で新潟市やその周辺には福島潟や鳥屋野潟など潟が点在し、冬には多くのハクチョウ類やガン類が飛来する、豊かな生態系が今も残されています。

今回のエクスカーショーンは前日の公開シンポジウムの議論を引き継ぎ、現地視察および「えちごエコネット活用部会」の取り組みを知ることにより、生態系ネットワーク形成の科学的意義とそれを生かした地域づくりについて理解することを目的とします。お昼には、潟の産物を使用した「潟弁当」を味わい、生態系ネットワーク形成により産み出される水辺資源の魅力を「食」として体験していただきます。午後のトークセッションでは福島潟や瓢湖の活用事例が鳥類の話題とともに紹介され、参加者全員で「えちごエコネット」の未来について語り合います。

水都新潟のシンボルである「萬代橋」を起点に、信濃川・阿賀野川をめぐるエクスカージョン、奮ってご参加ください。

■開催概要

- ・開催日：2025 年 9 月 14 日（日） 8：30 集合～16：45 解散
- ・視察箇所：午前①信濃川やすらぎ堤
 - ②阿賀野川自然再生事業（浅場の再生，連続性確保）
 - ③環境保全農業の取り組み（宮尾農園自然農法・有機農法）
 - ④福島潟河川改修事業（潟水面の拡張）
- 昼食 ビュー福島潟 6 階で昼食会：潟の恵みを味わう「潟弁当」を食べ
- 午後 ビュー福島潟 6F：公開トークセッション
「みんなで考える『えちごエコネット』と福島潟エリアの未来」
- ・集合場所：萬代橋 右岸（新潟駅側）上流側
- ・昼食場所：ビュー福島潟
- ・募集人数：35 名（申し込み先着順）
- ・参加費（うち消費税 10%含む）： 一般 6,000 円 学生 5,000 円
(潟弁当 2,000 円，ビュー福島潟入館料含む)
- ・現地解説：山崎憲人・佐々木洋一（北陸地方整備局），吉田亮（新潟県），宮尾浩史（宮尾農園）
- ・トークセッション：えちごエコネット 関島恒夫（新潟大学），藤田美幸（新潟国際情報大学），佐藤安男（新潟県水鳥湖沼ネットワーク），土井一心太（瓢湖白鳥観察舎販売組合），えちごエコネット事務局（北陸地方整備局，（公財）日本生態系協会）
- ・主催：応用生態工学会第 28 回新潟大会 2025 実行委員会

■申込み方法

下記 URL よりお申込みください。

https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/eces2025/content/field_excursion_niigata

応用生態工学会 新潟大会 エクスカーション行程表

令和7年9月14日(日)

集合時間	8:30
集合場所	萬代橋 右岸(新潟駅側)上流側 やすらぎ堤
移動手段	マイクロバス 2台
帰着場所、時間	新潟駅、16:45頃



【参加予定者】 35名

時間	場所	時間	備考	
～ 8:30	萬代橋		集合	
8:30 ～ 9:00	ミズベリグ信濃川やすらぎ堤 (萬代橋～八千代橋)	0:30	徒歩散策 新潟総合テレビ (NST) 前の道路から乗車移動込み	
↓	阿賀野川 右岸 (泰平橋～横雲橋) 堤防道路経由	0:45		27km
9:45 ～ 10:15	阿賀野川床固公園 自然再生事業 (浅場の再生)	0:30	新潟市江南区沢海 (阿賀野川 左岸) 駐車場から現場まで 片道 徒歩約7分	
↓		0:15		11km
10:30 ～ 10:50	大河原樋管 自然再生事業 (連続性の確保)	0:20	阿賀野市嶋瀬 (阿賀野川 右岸)	
↓		0:15		9km
11:05 ～ 11:15	道の駅 あかの 休憩	0:10	時間調整	
↓		0:15		11km
11:30 ～ 12:10	宮尾農園 自然農法・有機農法	0:40	新潟市北区大月丙	
↓		0:15		7km
12:25 ～ 12:45	福島潟 河川改修事業 (潟水面の拡張)	0:20	ビュー福島潟 屋上 (雨天時 6F)	
↓		0:00		
12:45 ～ 13:45	ビュー福島潟 6F 昼食・休憩	1:00	潟弁当、マルシェ開催、昼間の貸切不可	
↓	13 時前から会場設営	0:15		
14:00 ～ 15:45	ビュー福島潟 6F 活用部会	1:45	越後平野における生態系ネットワーク協議会 (活用部会/応用生態工学会会員・一般市民)	
↓		1:00	25km (国道7号 新潟バイパス渋滞見込み含む)	
16:45	新潟駅		解散	

■新潟 発
| とく336号(E7系)(東京行)
| 17:50-19:52
◇東京 【乗換8分】
| のぞみ99号(N700系)(広島行)
| 20:00-22:27
◇新大阪 着

■新潟 発
| 新潟空港線【新潟直行便】(新潟空港行)
| 17:45-18:10
| 18:00-18:25
◇新潟空港
| ANA1664便 JAL2250便
| 18:55-20:20 19:15-20:30
◇伊丹空港 (空港)

公開トークセッション

タイトル：みんなで考える「えちごエコネット」と福島潟エリアの未来

～福島潟エリアから広がる越後平野の生態系ネットワーク～

日時：2025 年 9 月 14 日(日) 14:00～15:45

会場：ビュー福島潟 6F 展望ホール

対象：応用生態工学会会員・一般市民

時間	内容	備考
第 1 部		
14:00 ～ 14:10 (10 分)	開会挨拶・趣旨説明	司会進行：北陸地方整備局 挨拶＋趣旨説明 関島恒夫（新潟大学）
14:10 ～ 14:20 (10 分)	プレゼンテーション 1	国交省の取組のまとめ 福島潟モデルプロジェクトの紹介 えちごエコネット事務局 (北陸地方整備局・(公財)日本生態系協会)
14:20 ～ 14:30 (10 分)	プレゼンテーション 2	福島潟の利活用の取組 佐藤安男氏 (新潟県水鳥湖沼ネットワーク 事務局長)
14:30 ～ 14:40 (10 分)	プレゼンテーション 3	瓢湖の利活用の取組 土井一心太氏 (瓢湖白鳥観察舎販売組合 代表理事)
14:40 ～ 14:50 (10 分)	(休憩)	
第 2 部		
14:50 ～ 15:40 (50 分)	パネルディスカッション 質疑応答・意見交換	福島潟とえちごエコネットの未来を語る ファシリテーター：藤田美幸（新潟国際情報大学）
15:40 ～ 15:45 (5 分)	閉会挨拶	

4 理事会報告

第 1 期第 7 回通常理事会及び第 1 期第 8 回書面理事会における決議事項、報告事項等について、下記の通り報告します。

・第 1 期第 7 回通常理事会

開催日時 令和 7 年 6 月 12 日（木） 10時から12時

開催場所 一般社団法人応用生態工学会事務局（Web 方式併用）

出席者 理事総数 20 名
 出席理事 16 名 (定足数 11 名)
 会長 占部城太郎
 副会長 東信行、清水義彦
 専務理事 天野邦彦
 理事 赤松良久(WEB 参加)、沖津二郎、小俣篤、北村匡、佐藤高広(WEB 参加)、
 島村彰(WEB 参加)、関島恒夫、平井秀揮、光成政和、柳川晃(WEB 参加)、吉
 村 千洋 (WEB 参加：11 時まで)、渡邊康玄 (WEB 参加)
 出席監事 1 名
 監事 鳥居敏男

その他出席者 事務局長 齊藤泉

議題

決議事項：令和 7 年度予算案および事業計画案の件

委員会再編の件

要望書・意見書等の作成手続きの件

地区会規程改定および地区会規程細則制定の件

経理規程、事務局規程および印章管理規程制定の件

新規入会希望者承認の件

報告事項：任意団体からの財産譲渡の経過報告

役員選考委員会の経過報告

2025 年度全国大会についての報告

2024 年度海外学会等への派遣報告

2025 年度海外学会等への派遣員の審査結果の報告

会誌編集委員会からの報告

その他事項：2025 年度総会開催予定について

今後の理事会予定について

※決議事項の議案のうち、経理規程については、提出された意見への対応について税理士に確認
 が必要なことから今回の決議事項となりました。そのほか全て承認可決されました。

・第 8 回書面理事会

決議事項：廣瀬賞・研究奨励賞受賞者および廣瀬ワークショップ助成対象の承認の件

令和 7 年 7 月 17 日、会長占部城太郎が理事・監事の全員に対して、理事会決議の目的である事項につ
 いて、提案書を送付し、当該提案について、令和 7 年 7 月 24 日までに理事の全員から同意する旨の意思
 表示を、又、監事から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第 37 条に基づき、当該提案を承認可決
 する旨の理事会決議があったものとみなされた。

第 2 回 廣瀬賞・研究奨励賞受賞者および廣瀬ワークショップ助成対象は、以下の通りです。

「廣瀬賞」

北海道大学 地球環境科学研究所 教授 根岸 淳二郎氏

「研究奨励賞」

国立研究開発法人 土木研究所 専門研究員 岡本 聖矢氏

北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場研究職員 東垣 大祐氏

「廣瀬ワークショップ助成」

応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 熊本 河口 洋一氏

応用生態工学会第 28 回新潟大会公開シンポジウムの開催およびエクスカージョンの実施 関島 恒夫氏

5 行事予定・報告

各地域（各地区）の普及連携委員が企画・運営する行事予定をお知らせします。

お近くの方（遠方の方も）、ぜひ、ご参加ください。

地域 【地区】	開催時期	行事開催予定
札 幌	2025 年 4 月～	河川環境の定量目標を考えるワークショップ
	2026 年 1 月 31 日	札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム 2025【協力】
	未定	応用生態工学会札幌セミナー 2025
	未定	北海道の応用生態工学__「新潟大会」の北海道の話題を集めた発表会
仙 台 【東北地区 会】	2025 年 8 月 9 日	東北地区総会および記念講演
	2025 年 8 月 30 日	仙台湾南部海岸プロジェクト 仙台湾南部海岸深沼地区
長 野	2025 年 10 月 9～10 日	第 23 回 北信越現地ワークショップ in 長野 令和元年東日本台風による災害後の取り組み (流域治水) と千曲川の環境・生物の回復、変化 (仮)
富 山	2025 年 11 月予定	地震後の松川の再生、松川除けの伐採、プラスチックごみなど
金 沢	2025 年 11 月予定	能登の現状とこれから (仮)
	2025 年 11 月 8 日	「北陸のいきいき流域川づくりワークショップ」【後援】
福 井	2025 年 12 月以降	地域勉強会 (テーマ未定)
名古屋	2025 年 11 月以降	中部地整管内の河道掘削完了時点とその後の河道変遷河川環境分析データを踏まえた上での勉強会 (仮)
松 山	2025 年 12 月 6 日	重信川ウオーク(松原泉～広瀬霞～霞の森公園)
福岡・那覇 【九州地区 会】	2025 年 11 月 8～9 日	第 15 回全国フィールドシンポジウム (熊本県人吉市で流域治水をテーマに開催)
	2026 年 1 月予定	九州地区事例・研究発表会

各行事の詳細が決定次第、メーリングリスト等でご案内します。

2025 年 8 月 1 日現在の予定です。変更となる場合がございます。

◆行事開催報告（札幌）

報告者：渡辺恵三（㈱北海道技術コンサルタント／普及連携委員）

藤井和也（㈱福田水文センター）

応用生態工学会札幌では、河川管理者（国交省・北海道）、コンサルタント、研究者たちが集い、「川の定量的環境目標」の設定とその達成に向けて、ワークショップを行っています。

1) 川の定量的な環境目標の設定と達成に向けた話題と意見交換会（2024 年 11 月）

2024 年 5 月に「生物の生息・生育・繁殖の場としてもふさわしい河川整備及び流域全体としての生態系ネットワークのあり方検討会」において提言された「河川環境の定量的な目標設定」は、河川に関わる管理者、技術者、研究者にとって共通の課題となっています。一方でその目的や方法論について共通認識を得るまでには至っていないのが現状です（2024 年 11 月現在）。今回、「河川環境の定量的な目標設定」の背景、目的、今後の展開に向けて意見交換をおこない、より理解を深める場を企画しました。ご登壇頂きました方々、ご参加頂きました方々に御礼申し上げます。

（概要）

日 時：令和 6 年 11 月 18 日 13:30～17:00

場 所：札幌エルプラザ二階環境研究室 A・B

参 加 者：103 名

（第 1 部：会場 52 名、オンライン 51 名／第 2 部：47 名）

協 力：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部・帯広開発建設部、北海道建設管理部



「川の定量的環境目標の設定に向けて～提言の背景と解説および展望～」と題し、中村太士さん（北海道大学名誉教授）から河川環境の定量的評価と目標設定がなされた背景やその意義についての解説いただきました。河川のみならずダムや治山・砂防ダムにも環境目標を設定していく必要性やそれらを生態系ネットワークへと発展させる重要性が示されました。「私自身、いま現在、正解がわかっているわけではない」とは中村先生の言葉であるが、今回の話題提供が今後の目標設定を行っていく行政関係者、研究者、建設コンサルタント技術者にとって、とても有意義な機会であった。

第 2 部の意見交換会では、卜部浩一氏（北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場）の進行のもと、応用生態工学会員（賛助会員を含む）を対象として、三名の演者から環境目標に関する事例紹介・話題提供いただきました。坪井潤一さん（水産研究・教育機構）からは、「水産サイドからみた環境目標とその展望」と題し、栃木県那珂川における地元高校生と実施した「多自然川づくり」研修会の事例紹介、石田憲生さん（株式会社ドーコン・水工事業本部河川環境部）からは十勝川水系における自然再生計画の目標検討の事例紹介、古西力さん（株式会社ドーコン・水工事業本部河川環境部）からは豊平川における目標設定に関する事例紹介がありました。

坪井さんは、環境目標設定のためには関係者が過不足なく参画できる流域協議会の必要性のほか、那珂川における流速や流量、遡上可能流程の数値目標の設定について具体例を示し、本州における取

組事例を知る好機となりました。石田さんは、十勝川水系における目標検討の流れ、河川環境管理シートを活用した環境目標の設定についての具体的な流れを示し、多くの参加者にとって参考となる内容であった。古西さんからは、現在進行形で悩まれている事項を紹介いただき、思わず自分事として頷く参加者もみられました。卜部さんより意見交換会の論点整理（1.環境目標設定に必要な知見が不十分、2.環境目標を実現するための施工管技術が不足、3.不確実性を許容する制度設計）がなされた後、参加者による活発な議論が交わされました。



渡辺による趣旨説明



中村太士さんによる話題提供



坪井さんによる事例紹介



石田さんによる事例紹介



古西さんによる事例紹介



卜部さんによる進行

2) 自由集会「川の定量的環境目標の設定に向けて（札幌版）」（2025 年 1 月 23 日）

応用生態工学会札幌では、全国大会の発表のうち、北海道に関する話題を集めて、札幌でも発表する、また、発表を聞ける機会をつくっています。

去年は、さいたま大会 2024 の発表から 13 件、また、応用生態工学研究奨励賞を受賞した三浦一輝さん（北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所 自然環境部生物多様性保全グループ）、中島颯太さん（北海道立総合研究機構林業試験場 森林環境部機能グループ）の受賞講演を行いました。

この機会に、さいたま大会の自由集会「川の定量的環境目標の設定に向けて（企画者_中村太士、森照貴、一柳英隆）」のふまえ、札幌版の自由集会を企画しました。

（概要）

第 4 回北海道の応用生態工学 全国大会の発表を札幌でも その 3（2024 さいたま大会）

自由集会「川の定量的環境目標の設定に向けて（札幌版）」

日 時：令和 7 年 1 月 23 日 11:15～12:30

場 所：北海道大学学術交流会館 小講堂

参 加 者：128 名



川の定量的環境目標に関するこれまでの講演や意見交換等をふまえ、実際に定量的な環境目標を自分ごととして考え、課題や悩みを共有し、解決策を模索することが目的です。

工藤晃央さん（株式会社ドーコン）からは、対象とする生物種をどう設定するか？、そして、どういう場と関連づけられるのか？という課題に、「絶滅種・絶滅危惧種」のアプローチからの見解。玉田祐介さん（株式会社長大/帯広畜産大学）は、ある指標種を設定した場合、どのようにして定量的な数値を設定したらいいのか？という課題に「砂礫性の生物（イカルチドリ・カワラバツタ等）」を指標種とした場合の数値設定の試みを紹介しました。また、千葉悠子さん（株式会社北海道技術コンサルタント）からは、数値目標が設定されたとして、それを達成する技術（計画・設計・施工）の観点から、アユの産卵場となる瀬をつくる「小さな自然再生」の事例の紹介がありました。

川の定量的環境目標にあたって、対象種の設定、ハビタットとなる場との関連、そして数値設定、さらに目標達成の技術。各段階における具体的な課題に対する意見交換が活発に行われました。

ここで、定量的な環境目標の設定と達成にむけて、我々で、実際に川に行って、調査して、目標を設定して、達成に向けた計画・設計を行い、そして、施工・モニタリングまでの一気通貫をやろう！と盛り上がりました。



工藤さんによる話題提供



玉田さんによる事例紹介



千葉さんによる事例紹介



中村太士さんのコメント

3) 川の定量的な環境目標の設定と達成に向けたワークショップ環境目標のワークショップ 第1回 (2025 年 4 月 16 日)

1 月の自由集会を受けて、環境目標の設定の達成に向けた実践的な試行を始めようと、河川管理者（北海道）、コンサルタント（環境調査や河道計画に関わる技術者）、研究者たちがプレイヤーとして集い、川の定量的環境目標の設定に向けて議論を交わしました。

（概要）

日 時：2025 年 4 月 16 日 13：00～18：00

場 所：北海道大学 農学部 S21 教室

参加者：36 名



ワークショップでは、あり方検討会の提言を受けて共通認識のもと取り組むため、まず、中村太士さんから、十勝川（北海道開発局管理区間）での河川環境区分（基本の環境要素 12 類型）と河川水辺の国勢調査（魚類）のデータを活用した目標設定の事例、そして、検討を進めるなかで見てきた今後、環境目標を設定するうえでの 5 つの課題（後述）が示されました。また、中村繁人さん（北海道旭川建設管理部）・本田康隆さん（株式会社開発調査研究所）から北海道が管理する中小河川の雨竜川と朱太川における環境に配慮した整備をふまえ、環境目標の観点から整理し、中小河川の環境目標の設定に向けた課題や方向性が示されました。

そして、5 つのテーマ 「①生物種の調査方法、②生物生息場の類型化と調査方法、③指標種の設定、④生息場環境の変遷（空中写真）、⑤失った生息場環境の復元方法・検証方法」ごとにグループワークを行い、各項目について検討し、その内容を共有しました。

テーマ① 生物種の調査方法

- 1) 水国データがない道管理河川で生物情報をどうやって把握するか？
- 2) いつの時期にどんな方法（たとえばeDNA）で対象河川の生物種を明らかにするか？
- 3) 現状では、水域と氾濫原域（陸域）の 2 つの分類群を考えたらどうか、と思っています。たとえば魚類と鳥類。

テーマ② 生物生息場の類型化と調査方法

- 1) 環境管理シートのない道管理河川で生息場情報をどうやって把握するか（たとえばドローン撮影、グリーンレーザー）？
- 2) 環境管理シートの 12 類型（添付ファイル）に匹敵する補助河川（河道幅がせまく、やや急流）の生息場類型化は？水域と氾濫原域、両方必要
⇒ セグメント M~1（主に 1）に対応する生息場の類型化方法の検討が必要
- 3) ③で指標種として定められた種の中には、繁殖環境の類型化も必要になるかもしれない。

テーマ③ 指標種の設定

- 1) すべての種を対象に議論することはできないので、指標種を設定する必要性がある
- 2) 生息場の類型に対応した指標種候補を選ぶ必要性がある。
また、注目種（象徴種）として文化的・商業的価値のある種も含める。アユ、サケ、シシャモなど。

テーマ④ 過去の空中写真から生息場環境の変遷を調べる。その方法は？

- 1) 空中写真を使う場合、どの年代から検討するのが適当か？
- 2) 生物情報は時系列データが道管理河川にはないので、生息場環境の変化から指標種の増減を推定する。その方法は？

テーマ⑤ 基本、④で残っている生息場環境を保全し、失った生息場環境を復元することが指標種の個体数増加、Nature positiveにつながる。

- 1) 復元方法はどのようなものが考えられるか？
- 2) 検証（モニタリング）方法は？順応的管理はどのように実施するか？

環境目標の設定と達成ための 5 つのテーマ

「環境目標の設定を通じた新たな河川管理」に必要な検討項目について整理を進める一方で、その実践にはやはり、実際の河川での観察・調査・試験施工の実施といった具体的な取り組みを通じた試行錯誤が必要とのと考えるに至りました。

この実践的な取組みとして、河川環境管理シート、河川環境や動植物に関する情報が少ない、中小河川において、「どのように情報収集し、どのように目標設定を行うか、そして、どうやって達成するか」具体的な河川をケーススタディとして試行することになりました。



グループワークの様子

4) 川の定量的な環境目標の設定と達成に向けたワークショップ環境目標のワークショップ 第2回 (2025 年 6 月 10 日)

具体的な河川を対象として環境目標を定める実践ため、北海道小樽建設管理部管内の二級河川野束川（のづかかわ）の現地視察を行いました。

今後、緊急浚渫推進事業（堆積土砂の掘削や河道内樹木の伐採）が計画されており、この掘削を契機にネイチャーポジティブを図るよう、定量的環境目標を定め、達成するための調査・検討を進めていきます。

（概 要）

日 時：2025 年 6 月 10 日 10：00～15：00

場 所：小樽建設管理部共和出張所，野束川（岩内町）

参加者：30 名



すでに、河川整備に関する既往資料の収集・GIS での整理、環境 DNA（魚類）、水温観測、水位観測等の調査を始めています。



現地視察と意見交換の様子（野束川・小樽建設管理部共和出張所）

6 2025 年度行事経過と今後の予定

2025 年度(令和 7 年度)行事の予定

令和 7 年 6 月	総務委員会 (6 月 6 日開催) 第 1 期第 7 回理事会 (6 月 12 日開催) 廣瀬賞選考委員会 (6 月 16 日開催) 2024 年度 (令和 6 年度) 終了
7 月 1 日	2025 年度開始
7 月	第 2 回役員候補者選考委員会 (7 月 4 日開催) 第 1 期第 8 回書面理事会 (7 月 24 日廣瀬賞承認決議) 第 2 回役員候補者選考委員会 (7 月 25 日開催)
8 月	ニュースレター109 号発行 第 1 期第 9 回理事会 (8 月 27 日開催予定)
9 月	応用生態工学会第 28 回全国大会 (新潟大会) 予定 9月11日 (木) : 研究発表 (ポスター発表), 自由集会 9月12日 (金) : 研究発表 (口頭発表), 自由集会, 懇親会 9月13日 (土) : 総会, 発表賞表彰, 廣瀬賞発表・記念講演会 公開シンポジウム 9月14日 (日) : エクスカーション 第 2 期第 1 回理事会 (9 月 13 日開催予定)

7 事務局より

会員管理サービスシステム活用をお願い (会員情報変更、総会資料の受け取り方指定)

1. 会員情報の変更登録は、学会ホームページトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「マイページ」にログインし、「マイページ」の下の方にある、「会員情報を変更する」をクリックして、変更登録を行ってください。
2. 会員情報変更のご連絡は、学会事務局 eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことでも可能です。

会誌(希望者のみ)のお届け、ニュースレター、その他の連絡では、かなりの「不達が発生」しています。

連絡先等の変更連絡をよろしくお願いいたします。

3. 「マイページ」にある、「会員情報を変更する」のページの最下段に、「総会招集の通知および総会関係書類の電磁的方法による送付」の選択項目があります。電磁的方法 (インターネット) による総会開催通知等の受取りの許諾をお願いします。

(説明) 郵送の代わりに電磁的方法 (インターネット) により総会開催通知等をお送りするためには、法の定めるところにより、正会員お一人お一人から、個別に承諾を頂く必要があります。

当学会の事務局は 2 名体制で何とか業務を遂行しております。お送りする資料は書面も電子ファイルも同内容です。皆様の 1 分のお手間で、事務局の業務が大きく軽減されます。

もちろん書面の送付が必要という方には、郵送いたしますが、電子ファイルでの受け取りを承諾いただける方におかれましては、許諾いただけますと幸甚です。

皆様のご協力が、事務局業務の大きな助けになります。どうかご協力ください。

退会の申し出は「退会フォーム」にてお願いします

退会の申し出については、事務局の見落とし等をさけるため、①「学会ホームページ退会フォーム」または ②「事務局あてに退会の連絡メール」により連絡をお願いいたします。